

平成30年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年1月5日

上場会社名 株式会社カンセキ 上場取引所 東
 コード番号 9903 URL http://www.kanseki.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長谷川 静夫
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 村山 和弘 (TEL) 028-659-3112
 四半期報告書提出予定日 平成30年1月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第3四半期の連結業績 (平成29年3月1日～平成29年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第3四半期	24,258	2.7	846	3.5	697	10.9	428	26.9
29年2月期第3四半期	23,612	0.5	817	△13.6	628	△15.9	337	△21.3

(注) 包括利益 30年2月期第3四半期 510百万円(32.5%) 29年2月期第3四半期 385百万円(△28.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第3四半期	59.56	59.11
29年2月期第3四半期	45.71	45.51

(注) 平成29年9月1日付で、普通株式について2株を1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年2月期第3四半期	27,770	6,398	22.9
29年2月期	26,322	6,047	22.9

(参考) 自己資本 30年2月期第3四半期 6,368百万円 29年2月期 6,027百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期	—	2.00	—	2.00	4.00
30年2月期	—	2.00	—	—	—
30年2月期(予想)	—	—	—	4.00	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成30年2月期の期末配当金につきましては、平成29年5月25日開催の株主総会決議による平成29年9月1日付の株式併合(普通株式につき2株を1株に併合)後の株式を対象としております。また、平成30年2月期の年間配当金合計は、単純合算できないため、「—」と表示しております。

3. 平成30年2月期の連結業績予想 (平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	32,000	2.6	900	7.0	700	16.6	410	136.5	56.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成30年2月期の通期の1株当たり当期純利益につきましては、平成29年5月25日開催の株主総会決議による平成29年9月1日付の株式併合(普通株式につき2株を1株に併合)を見込んだ株式数により予想しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年2月期3Q	8,050,000株	29年2月期	8,050,000株
② 期末自己株式数	30年2月期3Q	929,533株	29年2月期	790,017株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年2月期3Q	7,190,767株	29年2月期3Q	7,381,488株

(注)平成29年9月1日付で、普通株式について2株を1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、期末発行済株式数(自己株式を含む)、期末自己株式数及び期中平均株式数(四半期累計)を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成29年3月1日から平成29年11月30日まで)における我が国経済は、世界的な政情不安や近隣国との緊張が増す中、比較的安定した情勢の中で引き続き一定の改善が見られますが、多くは大手輸出・IT関連企業を中心としたものであり、個人所得・消費の改善については依然として厳しい状況が続いております。

この様な中、当グループは地域のお客様の「生活の快適創造」に繋げる体制づくりを推進してまいりました。

当第3四半期連結会計期間(平成29年9月1日から平成29年11月30日)では、前半部分で好天に恵まれたため、レジャー関連商材や園芸関連が順調な滑り出しを見せましたが、10月後半の2週に亘る週末の台風襲来により、一転して鈍化する事となりました。最終月では秋の深まりと共に気温も低下した事で、暖房用品・灯油・重衣料は平年以上に早い動きを見せた他、ペット関連商品も引き続き期初からの好調を維持しております。

WILD-1事業では、気候変動の影響は受けたものの、プライベート・ブランドを中心としたキャンプ関連用品が、店頭・ネット販売共に盛況に推移致しました。重衣料も近年冬季の衣料不振に対し、堅調な回復を見せております。

業務スーパー店舗及びオフハウス店舗を中心とした専門店事業においても安定した業績を残しております。

設備面では、新しいコンセプトのショップ「ザ・グリーンコネクション」をホームセンター真岡店で新規開店した他、ホームセンター小金井店の全面改装や、WILD-1店舗での改装等を行った結果、一部経費の増加要因が発生しましたが、販売促進費の効率化や屋内外照明のLED追加導入等により水道光熱費が継続して圧縮するなどして、販売管理費全体では微増で収まりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は242億58百万円(前年同四半期比2.7%増)、営業利益は8億46百万円(前年同四半期比3.5%増)、経常利益は6億97百万円(前年同四半期比10.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億28百万円(前年同四半期比26.9%増)となり、増収増益となりました。

なお、当グループの報告セグメント事業別業績は次の通りです。

[ホームセンター事業]

ホームセンター事業では、依然としてデフレ傾向が根強く、業態を超えた競合もあり、厳しい商環境が続いております。当第3四半期連結会計期間は、比較的穏やかな気候でスタート出来た為、レジャー関連商材や園芸関連が順調に推移しましたが、中盤の2週に亘る週末の連続台風到来により、それらを含めた屋外関連商品の販売に影響が出ました。一方で、終盤では気温の低下の早まりにより、防寒・暖房用品や灯油の販売に繋がる結果となりました。小金井店の全面改装や個店の販促・集客の強化策も効果を上げました。また、ペット関連用品は引き続き堅調に推移し、日用品の販売も需要期でのポイントセール投入により、好調に推移致しました。

施設・費用面では、小金井店の全面改装や真岡店での新しいコンセプトのショップ「ザ・グリーンコネクション」の新規開店等により、関連費用が発生致しましたが、広告宣伝費等の効率化を進め、経費増加を抑制致しました。

これらの結果、営業収益は134億89百万円(前年同四半期比1.7%減)、セグメント利益は3億97百万円(前年同四半期比16.5%減)となりました。

[WILD-1事業]

WILD-1事業では、主力のキャンプ関連用品が安定した業績を上げている他、昨年下半年に新規開店した2店舗(越谷レイクタウン店、名古屋守山店)は現在でも好業績を上げております。キャンプレジャーは、その楽しみ方もSNSを利用した個人主張の流れが加わり、多様化したスタイルの中で個性ある商品が求められる傾向にあります。ネットショップのオンライン販売も、プライベート・ブランドを中心に継続して活況を呈し、中でもグッドデザイン賞を取得したユニークな商品等は、新たな需要開拓に繋がり、業績に貢献しております。

設備面では、水戸店・多摩ニュータウン店・仙台泉店に引続き、好調の郡山店の改装を行い、営業力の強化に繋げました。一部経費の増加要因が発生しましたが、販売促進費の効率化や屋内外照明のLED追加導入等により経費の抑制を致しました。

これらの結果、営業収益は61億57百万円(前年同四半期比11.2%増)、セグメント利益は5億65百万円(前年同四半期比38.1%増)となりました。

〔専門店事業〕

専門店事業の内、業務スーパー店舗では、不安定な気候の中でも、安定成長を続けております。10月よりクレジット販売の取扱いを開始して利便性を高めるなど、新たな取り組みを致しました。

オフハウス店舗では、同業他社や個人ネット取引でのリユース品取扱いが増加傾向にあり、商環境は更に厳しさを増しております。その様な中で店頭販促及び出張買取り強化策に加え、一部店舗で7月より新たに取組んだオフハウス本部系列のオンライン販売も順調に推移した事により、営業収益は前年同期と比較して増加し、利益貢献に繋がっております。

これらの結果、営業収益は48億98百万円（前年同四半期比5.5%増）、セグメント利益は3億15百万円（前年同四半期比14.2%増）となりました。

〔店舗開発事業〕

店舗開発事業では、一部で賃貸契約満了を迎えた施設もあり、管理物件数は減少致しましたが、業績は計画通りに推移しております。

これらの結果、営業収益は4億11百万円（前年同四半期比17.1%減）、セグメント利益は1億27百万円（前年同四半期比1.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、277億70百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億47百万円の増加となりました。主な要因としては、流動資産その他の減少1億88百万円、敷金及び保証金の減少98百万円の減少要因に対し、現金及び預金の増加7億50百万円、クレジット売上増に伴う売掛金の増加1億55百万円及び商品の増加7億45百万円の増加要因によるものであります。

負債は、213億71百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億97百万円の増加となりました。主な要因としては、長期借入金の減少1億57百万円の減少要因に対し、支払手形及び買掛金の増加9億36百万円、短期借入金の増加1億56百万円及び未払法人税等の増加1億円の増加要因によるものであります。

純資産は、63億98百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億50百万円の増加となりました。主な要因としては、自己株式の取得1億11百万円及び配当金の支払57百万円の減少要因に対し、当第3四半期連結累計期間において親会社株主に帰属する四半期純利益4億28百万円を計上したことによるものであります。この結果、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は22.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月期の連結業績予想につきましては、平成29年4月7日に公表しました業績予想に変更はありません。

※ 上記予想は、現時点で入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る現時点における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	945,321	1,696,206
売掛金	262,499	418,057
商品	4,942,858	5,688,385
その他	657,012	468,445
貸倒引当金	△151	△240
流動資産合計	6,807,540	8,270,853
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,618,658	3,632,995
土地	12,226,993	12,275,176
その他(純額)	386,058	403,720
有形固定資産合計	16,231,710	16,311,892
無形固定資産		
投資その他の資産	733,797	682,643
敷金及び保証金	1,725,336	1,627,324
その他	823,686	877,348
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	2,549,022	2,504,673
固定資産合計	19,514,530	19,499,209
資産合計	26,322,070	27,770,062
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,411,842	3,348,668
電子記録債務	677,858	742,625
短期借入金	3,847,600	4,004,000
1年内返済予定の長期借入金	3,959,770	3,973,705
未払法人税等	97,034	197,890
賞与引当金	—	74,293
ポイント引当金	242,923	254,273
その他	777,445	804,331
流動負債合計	12,014,473	13,399,786
固定負債		
長期借入金	6,886,229	6,728,234
役員退職慰労引当金	28,340	28,340
退職給付に係る負債	565,524	577,848
資産除去債務	140,320	141,339
長期預り敷金保証金	286,554	207,234
その他	353,221	289,211
固定負債合計	8,260,189	7,972,207
負債合計	20,274,663	21,371,993

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,926,000	1,926,000
資本剰余金	1,864,000	1,864,000
利益剰余金	2,245,886	2,616,490
自己株式	△322,825	△434,132
株主資本合計	5,713,061	5,972,357
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	310,275	393,167
退職給付に係る調整累計額	3,672	3,387
その他の包括利益累計額合計	313,947	396,555
新株予約権	20,398	29,156
純資産合計	6,047,407	6,398,068
負債純資産合計	26,322,070	27,770,062

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
売上高	23,612,379	24,258,206
売上原価	16,798,609	17,261,301
売上総利益	6,813,769	6,996,904
営業収入	806,277	717,173
営業総利益	7,620,047	7,714,078
販売費及び一般管理費	6,802,538	6,867,983
営業利益	817,509	846,095
営業外収益		
受取利息	471	434
受取配当金	8,654	9,025
受取保険金	6,229	9,414
補助金収入	—	18,155
その他	4,722	4,385
営業外収益合計	20,078	41,415
営業外費用		
支払利息	204,791	180,031
支払手数料	1,800	1,800
その他	2,131	8,474
営業外費用合計	208,723	190,306
経常利益	628,863	697,204
特別利益		
投資有価証券売却益	—	10,454
補助金収入	—	26,236
特別利益合計	—	36,690
特別損失		
固定資産除売却損	12,850	12,711
固定資産圧縮損	—	27,075
特別損失合計	12,850	39,787
税金等調整前四半期純利益	616,013	694,107
法人税、住民税及び事業税	262,528	263,826
法人税等調整額	16,057	1,993
法人税等合計	278,585	265,819
四半期純利益	337,428	428,288
親会社株主に帰属する四半期純利益	337,428	428,288

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
四半期純利益	337,428	428,288
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	47,166	82,891
繰延ヘッジ損益	1,366	—
退職給付に係る調整額	△320	△284
その他の包括利益合計	48,212	82,607
四半期包括利益	385,640	510,895
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	385,640	510,895

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年11月30日)
「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成28年3月1日 至 平成28年11月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	ホームセンタ ー	WILD-1	専門店	店舗開発	計				
営業収益									
外部顧客への営業収益	13,726,975	5,535,121	4,641,514	496,422	24,400,034	18,623	24,418,657	—	24,418,657
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	—	—	—	9,801	9,801	44,100	53,901	△53,901	—
計	13,726,975	5,535,121	4,641,514	506,223	24,409,835	62,723	24,472,558	△53,901	24,418,657
セグメント利益	476,231	409,243	276,664	124,822	1,286,962	16,571	1,303,533	△486,024	817,509

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び保険代理店事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△486,024千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△486,024千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年11月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	ホームセンタ ー	WILD-1	専門店	店舗開発	計				
営業収益									
外部顧客への営業収益	13,489,090	6,157,667	4,898,887	411,417	24,957,063	18,316	24,975,380	—	24,975,380
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	—	—	—	9,801	9,801	44,100	53,901	△53,901	—
計	13,489,090	6,157,667	4,898,887	421,218	24,966,864	62,416	25,029,281	△53,901	24,975,380
セグメント利益	397,857	565,153	315,897	127,085	1,405,994	16,446	1,422,440	△576,345	846,095

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び保険代理店事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△576,345千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△576,345千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。